

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

## 不祥事根絶のための行動計画

江田島市立三高中学校  
作成責任者 校長 沖元 成寿私たちは、求められる教職員像と教育の原点  
を常に意識し、不祥事を根絶します。

区 分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間計画に沿って毎月サービス研修を行っており、規範意識については概ね良好である。情報・物品管理への危機意識がやや不十分である。</li> <li>○組織全体に不祥事を生起させないという風土は概ね醸成されているが油断はできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒は教師の後姿から学ぶということを深く自覚し、また自分事としてとらえ、不祥事を絶対に生起させないという強い意識を常に持つ。</li> <li>○情報の適正管理を個人的・組織的に実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「教職員による不祥事の根絶」等を活用して、不祥事を起こした該当教職員の心情等の読み合わせを行う。</li> <li>○分掌・学年ごとにロールプレイ等による体験型のサービス研修を企画実施させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年度当初の研修で「教育公務員としてあるべき姿」について研修する。</li> <li>○企画したサービス研修を学期ごとに実施する。</li> </ul>
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机上整理・文書管理に対する意識がやや不十分である。</li> <li>○不祥事防止のための研修が計画的に行われているため、不祥事は生起しないだろうと油断していることが懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不祥事は小さな見逃しから生起していることを正しく認識する。</li> <li>○学校組織で本当に不祥事を防止できるのかを検証するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机上整理・文書管理を徹底してから退校する習慣を醸成する。</li> <li>○サービス研修後に、各自の心情や研修内容を踏まえての行動目標を記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○管理職が職員の退校前に確認する。</li> <li>○不祥事防止委員会で結果をまとめて教職員に配布する。</li> <li>○企画した研修を学期ごとに実施する。</li> </ul>
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「なやみの相談日」の認知は、十分であるが、生徒や保護者からの相談はほとんどない。</li> <li>○「体罰・セクハラ相談窓口」についてすべての生徒が認知しているが相談はない。保護者については、相談窓口を知らない方もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒や保護者が「なやみの相談日」を気軽に利用できる体制をつくる。また、管理職による教職員への声かけや面談も実施する。</li> <li>○「体罰・セクハラ相談窓口」を全ての生徒や保護者が認知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「なやみの相談日」の案内プリントを配付するとともに、掲示物で周知する。また、教職員が「なやみの相談日」には、生徒に積極的に声かけを行う。</li> <li>○学校だよりなどで保護者等に周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。また、保護者から体罰、セクハラについて聴取する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相談終了後、状況を全職員が共有する。</li> <li>○学期末に生徒、保護者及び本校教職員を対象にアンケート調査を実施し、情報を共有する。</li> </ul>